

本年もよろしく

お願いいたします



岩手県職員労働組合  
役員一同



号 外=新年特集号

2026年1月1日 発行

発行日 毎月15日30日  
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内  
岩手県職員労働組合  
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4  
有限会社 ジロー印刷企画  
一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

# 広い視野と現場目線での運動前進へ



中央執行委員長  
**小田嶋 智昭**

新年明けましておめでとうございます。日頃より業務に精励し、また、県職労運動へ結集いただいている組合員の皆様に心より敬意を表します。

25確定闘争では、全世代における1万円前後の賃上げと獣医師初任給調整手当の改善、危機事案に関する独自要求書を掲げて1年間求め続けた結果の防疫作業手当の大幅引き上げなど、組合員の皆様の結集により多くの改善成果を獲得することができました。この間のご協力に感謝申し上げます。

一方、通勤手当改定にかかる4月不遑及・総合案内員の任用修了については、当局提案に対して「妥結できない」との判断を行いました。いずれも提案理由及び根拠が職場現状と乖離・矛盾しており、合意に至ることができませんでした。継続課題として当局を追及していきますが、県職労は今後も現場目線で組合員の皆様と共に取り組んでいく所存です。

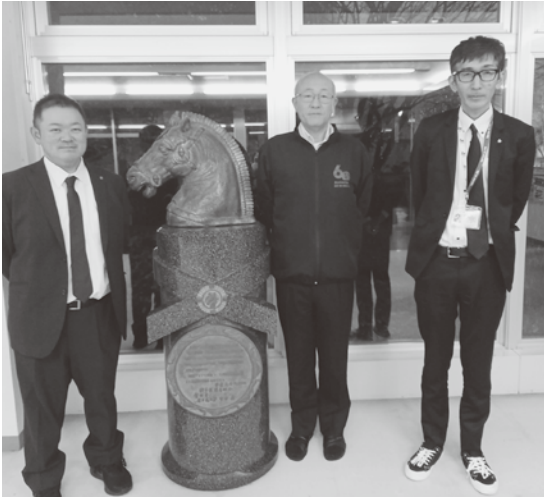
戦後80年目だった昨年、本来であれば平和憲法の理念を活かした安心社会への仕組みを構築していくべき年に、高市首相は就任直後から、防衛費予算の大幅増とその時期の前倒し、非核三原則の見直しや武力行使を可能とすることを含む安保3文書の改定などを唱え、隣国感情を煽りながら、争いのない平和な社会ではなく、武力を盾にした「強さ自慢」での他国牽制に走っています。今年は戦後満80年。真の平和社会構築への節目の年としていく必要があります。

こうした中、働く者の視点と地域住民の声が反映される行政機能の発揮に向け、現在連合岩手の副事務局長を務めている「今野よしふみ」さんが、3月1日告示の奥州市議会議員選挙に立候補する決意を固め、県職労としても組織内擁立を決定しました。現職の野中盛岡市議と同期の今野さん。2人目の組織内議員誕生へ皆様のご協力をお願いします。

今年も午年です。馬車馬のように働くと言った日本のトップもおりますが、目の前の人蔭に向けてただ走らされるのではなく、350度も見渡せると言われる馬の目のように視野を広く持ち、しっかりと着実に地を踏みしめながら要求獲得に向けて駆け上がっていくよう、組合員の皆様と共に、県職労運動前進に努めてまいります。組合員の連帯と組織強化に向け、本年もよろしくお願いいたします。

2026年今年もよろしく申し上げます

- 中央執行委員長 小田嶋 智昭 (胆江支部・土木部分会)
- 副中央執行委員長 小澤 豊和 (県庁支部・都市計画課分會)
- 副中央執行委員長 佐々木 辰治 (県庁支部・建築住宅課分會)
- 書記 長 藤村 秀樹 (県庁支部・都市計画課分會)
- 書記 次長 北崎 秀典 (久慈支部 県北広域振興局水産部分會)
- 中央執行委員 須藤 開 (釜石支部・沿岸広域振興局水産部分會)
- 中央執行委員 福士 誠 (盛岡支部・産業技術短期大学校分會)
- 中央執行委員 長澤 萌基 (県庁支部・市町村課分會)
- 中央執行委員 宮野 俊一 (県庁支部・管財課分會)
- 中央執行委員 久保 寿昌 (県庁支部・下水道課分會)
- 中央執行委員 菊池 圭 (県庁支部・健康国保課分會)
- 中央執行委員 鉦形 幸平 (弘前支部・農薬研究センター南部園芸研究室分會)
- 中央執行委員 石井 望夢 (県庁支部・農村計画課分會)
- 中央執行委員 渡 航太 (久慈支部・県税室分會)
- 県庁支部長 小田嶋 淳 (河川課分會)
- 盛岡支部長 佐藤 嘉彦 (盛岡農業改良普及センター分會)
- 花巻支部長 畠山 貴弘 (花巻県税センター分會)
- 北上支部長 内藤 善美 (中部農業改良普及センター分會)
- 胆江支部長 佐々木 琢磨 (県南広域振興経営企画部分會)
- 一関支部長 佐藤 勝志 (一関県税センター分會)
- 気仙支部長 高橋 達也 (大船渡土木センター分會)
- 釜石支部長 藤原 彰 (沿岸広域振興局経営企画部分會)
- 宮古支部長 遠藤 敬 (宮古水産振興センター分會)
- 久慈支部長 大崎 勝弘 (県北広域振興局林務部分會)
- 二戸支部長 高橋 義博 (二戸土木センター分會)



▲競馬改革推進室(新庄)分会のみなさん

### 職場紹介

## 競馬改革推進室(新庄)分会 岩手土木センター分会 岩手県水産技術センター分会

競馬改革推進室(新庄駐在)は岩手県競馬組合に在り、岩手競馬の運営に携わっています。現在8人の職員が駐在しています。岩手競馬は、盛岡競馬場、水沢競馬場の2場で交互に開催しています。盛岡競馬場は、地方競馬唯一の芝コースを持つ競馬場です。ゆとり・自然・ふれあいをテーマにした緑豊かな競馬場です。地方競馬屈指の偉容を誇る場内はいつも競馬ファンがあふれています。

### 競馬場に来てみませんか! 非日常を体験

#### 競馬改革推進室(新庄)分会

ています。

また、水沢競馬場は、盛岡競馬場と比べると比較的古のままの姿を残しており、いかにも地方競馬らしい、どことなくレトロな雰囲気を感じさせてくれます。

競走馬の走る姿は美しく、力強く、見る人々を魅了します。これまでに感じたことのない非日常を味わうことができます。是非、一度競馬場に足を運んでみてはいかがでしょうか。お待ちしております。

県職労には数多くの分会があり、その規模も職種も様々です。組合員の皆さんは、第一線で日々仕事をしながら、職場環境の改善を求めて頑張っています。今年、県庁支部「競馬改革推進室(新庄)分会」、盛岡支部「岩手土木センター分会」、釜石支部「岩手県水産技術センター分会」の3分会を紹介いたします。

### 激変する海洋環境に抗え! 明日の岩手を技術で「海拓」

#### 岩手県水産技術センター分会

岩手県水産技術センターは釜石市に位置する水産業専門の公設試験研究機関です。岩手県水産試験場から名称と位置を変え、1994年(平成6年)に現在の姿で開所しました。当所は、総務部、企画指導部、水産普及指導員、漁業資源部、利用加工部、増養殖部、漁場保全部、岩手丸及び北上丸で構成されています。海洋環境調査や水産資源の造成技術開発、獲れた水産物の利用加工から漁業経営の分析まで全60人で幅広い試験研究調査を展開しています。さて、皆さまは「高水温でサケが獲れない」「ウニが大量発生して身入りが少ない」「貝毒が長期化して

ホタテが出荷できない」なんてニュースを耳にしたことはないでしょうか。近年は、異常なほどの高水温をはじめ海洋環境が劇的に変わっています。そんな先行きが不透明な状況だからこそ、水産業の試験研究調査が今まで以上に必要となっています。水産技術センターは技術をもつて岩手の水産業を「海拓」していきます。

### 自然と人と地域の 豊かな調和を目指して

#### 岩手土木センター分会

岩手土木センターは、盛岡地方振興局土木部葛巻出張所、安代駐在、松尾駐在の統合により2003年4月に「盛岡地方振興局土木部岩手出張所」として設置され、2010年4月「岩

手土木センター」へ名称変更、その後の広域振興局移行を経て現在に至ります。所在地は岩手町五日市地内の旧岩手保健所で、職員23人・会計年度任用職員6人が在籍し、所管区域は、八

幡平市・岩手町・葛巻町の1市2町で香川県より少し小さな面積です。住民一人ひとりが快適に暮らせる地域の実現と、地元産業の経済活動を支えられるよう、道路や河川の整備と適正な維持・管理、土砂災害や岩手山の噴火に対する防災・減災対策などの業務に全員が力を合わせ取り組んでいます。管内には十和田八幡平国立公園、温泉、スキー場などがあり、多くの観光客が訪れます。とくに「雪の回廊」として全国的に有名な八幡平アスピーテラインの春先除雪も当センターが担当しています。



▲岩手県水産技術センター分会のみなさん



▲岩手土木センター分会のみなさん

2026年は丙午、火の性質が重なる干支ということ「熱」を持って頑張ります。

### 地方を守るため、今年も 現場主義で頑張ります!

明けましておめでとうございませう。日ごろのご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。昨夏の参院選で自治労の議席を死守し、2期目に入りました。6年5カ月の間に安倍・菅・岸田・石破・高市総理と毎年のように変わってきました。岸田政権までは一強他弱の国会情勢であったため、自治労にとっても望まざる地方自治法改正や健康保険証廃止を含むマイナンバー法改正など、数の力で可決され悔しいことも多々ありました。石破政権時は、衆院選で自民党が大敗し少数与党となり、野党の協力がなければ法案も予算も通らないため、法案の修正が実現しました。中でも2025年度予算では、政府が唐突に打ち出してきた高額療養費の引き上げを参議院での質疑により石破政権を立ち止まらせ、参議院で再修正し、衆議院に回付という現行憲法下で初めてのこともありました。

しかし熟議の国会から一転、昨秋誕生した高市政権は強さを打ち出し、非寛容な姿勢に危うさを感じています。2025年度補正予算は18・3兆円、うち11・7兆円が新規国債頼み、内容も物価高対策は重点支援地方交付金で自治体へ丸投げ、防衛費対GDP比2%水準の前倒し、財政法29条「緊要性」という言葉は何処へやらというものでした。積極財政が円安を加速させ物価高が続く恐れがあります。また、高市答弁による日中関係の悪化、安保三文書の見直し、スパイ防止法という名の市民の思想や行動監視法制、労働時間規制の改悪、憲法改正など、戦後80年続いた平和を壊されかねない危険性ははらんでいます。

今年の通常国会は、高市政権と対峙し、地域住民の暮らしを守る事が課題となつてきます。ネット上のもう一つのリアルな世界を含め政治の難しさを感じますが、組合員・家族の暮らし、地方を守るため、「鬼木まこと」とともに今年も現場主義で頑張ります。



参議院議員  
岸 まきこ  
自治労組織内(立憲民主党)